



TITLE:

観測帳

AUTHOR(S):

中村, 要

CITATION:

中村, 要. 観測帳. 天界 1931, 11(127): 495-496

ISSUE DATE:

1931-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161725>

RIGHT:

観 測 帳 1.

花山天文臺 中 村 要

Pluto の像 1925年の12月23日にキルソン山天文臺で G. Snromberg がクツク25センチ玉で引續き撮影しておいた二枚の原板から最近 Pluto の發見前の像が發見された。測定された位置は推算とよく一致して居る。

小遊星(22)カリオペ Kalliope 號は10月25日に衝になる。光度は9.4等で推算は以下の様であるが攝動の計算が出来て居るから相當信頼出来る。

10月 2日	2時 14.9分	+15° 2'
10	8.8	9
18	1.8	11
26	1 54.5	9

この小遊星は Hind が1852年11月16日に發見した星で軌道面の傾斜(13.7度)がやゝ大きい以外は普通の小遊星である。

長田彗星 この彗星は日没が早くなると共に割合に觀測し易い場所にあつて尙ほ一箇月は充分に見える豫想であるが、發見後約一箇月を経た8月17日に西天が割合によく晴れて居たので尾の檢出の爲に F3 鏡で30分露出撮影した。此の寫眞に約一度許りの長さの尾の痕跡はあるが思つた程の結果は得られなかつた。發見當時 Wilson 山の寫眞では5度の尾が記録されて居る。

エンケ彗星 エンケ彗星は6月14日及び16日に南阿ユニオン天文臺で觀測されて、其の觀測位置から前號の Bobone 氏の發見が確められた。エンケ彗星は觀測に都合の悪い場所にあつたが去る8月中旬に蝎座の南方に來たので推算をたよりに13cm Comest-secker で三晩探したが地平線近くで其の

姿を捕へることが出来なかつた。9月中旬には射手座近くに東進するから觀測出来るかも知れない。

Ross lens 米國ヤークス天文臺の Ross 氏の計算した Ross lens は約25度平方使用出来る廣角レンズで新式のものであり好評を得て居るが同氏はこれを祕密にしてゐるので詳細な設けは知り得なかつたが、最近自分の 11cm triplet の設計と交換に同レンズの設計が手に入る事になつた。自分の手で出来るものなれば作つて見たいと思つて居る。

Simeis 天文臺の小遊星觀測 南露にあるシメイス天文臺は1911年頃から小遊星觀測を始め今では斯界の權威ある天文臺となつて居る。器械は15センチのツアイス赤道儀に口径12センチ、焦點距離60センチの二個のテツサー。カメラを有し、可なり小型であるが、レンズの廣角度と觀測者の熟練とまつてハイデルベルヒ天文臺と比肩し得る好成績を擧げて居る。ハイデルベルヒ天文臺は微光のもの、同臺はレンズの廣角度を利用して最も多數のものを觀測してゐる。觀測者は Neujmin, Beljawsky, Albitzky 氏等で、すでに確定せる新發見の小遊星は70箇に達して居る。Neujmin 氏が原板上に發見せる彗星も數箇ある。僅か12センチの口径で約十四等までの極めて正確な觀測を得て居るのはカメラを二個使用せると檢出方法によろしきものと思はれる。原板の測定は二個の比較星による方法で比較星を二組使つて居るが焦點距離の短い割には極めて良好である。

観 測 帳

2.

花山天文臺 中 村 要

(30)ウラニア 此の小遊星は11月23日プレヤデス群の僅か東で衝になる。衝の光度は9.2等、推算位置は、

11月 3日	4時 13.9分	+24° 57'
11	7.0	+24 42
19	3 58.7	+24 19
27	3 50.1	+23 50

此の小遊星は1854年7月22日にハインドが発見したもので推算は相當正確で推算位置の極めて近くに見つかるだらう。

(4) Vesta 去る七月に6.0等の明るい衝になった此の小遊星は相にく悪天候に阻まれて充分見えなかつたが、衝を過ぎてからは南斗の上でよく観察され双眼鏡でよく見えた。相當南天近いので肉眼では一寸見えなかつた様である。

皆既月蝕の寫眞 月蝕の寫眞は小望遠鏡で出来る天體寫眞で最も面白いもので、要領は直径を2センチ以下に小さく寫す事であり露出時間は満月の寫眞を撮影するのと殆んど同じであつて、經驗上普通乾板よりも整色乾板を使つた黄色寫眞の方が缺け際がはつきり出る。露出時間は終りに近づくと從つて2-3倍まで漸次に延長すればよい。

さて最後の月光がいつとなく失くなつて、皆既蝕になると、赤銅色の淡い圓が見え、空には闇夜と同じく銀河も見えるし夜明け近くであれば東天に黄道光も見える。自分は皆既月蝕最中の月を數回撮影して去る9月26日朝にも、この時はわざわざ普通のイーストマン40の乾板を使つて撮影した。16センチ鏡 F3 で開放して丁度十分かけて其れで露出不足であつた。以前の經驗では整色乾板を使へば、やゝ速度は早くなるがそれでも十分間は必要であつたので、其れ等の點を見ると皆既中の月は地球の大氣を一

度通過した光を反射して居るので非常に赤いものらしい。將來も赤色光に感じる整色乾板を使ふ事は大事な要件であらう。

小遊星 Sarita か 去る9月19日朝赤經0時56分赤緯南16.5度を中心にして撮影した小遊星撮影の原板に796番 Sarita といふ9.8等の小遊星がどうしても見當らないので困つて居た所19日夕方推算位置から7度許り離れた原板の端1時20分南15°の點に其れらしい條を見つけた。20日朝は容易に眼視觀測が出来た。餘り推算と離れて居るので早速中央局に電報を打つたが、七度とはよくもこんな大きなずれ方をしたものである。

エンケ彗星 9月10日前後數夜30センチ屈折鏡で大分探したが見當らず、多分12等以下と思はれた。銀河の真中で星が多くて困るし、Seeing が悪くて星がぼんやり見えて分かりにくい。

Algier 天文臺の小遊星觀測 アフリカの北端にある Algier 天文臺は昔から位置天文學に熱心であるが、1916年頃から小遊星觀測を始めた。使用せる望遠鏡は、以前 Astrographic catalogue の作成の爲に作られた寫眞望遠鏡であつて、口径33センチ、焦點距離は343センチのもので撮影し得る視野は約三度平方であるが、其の長焦點を利用して専ら小遊星位置の精測の爲に使用して居る。尙ほ寫眞法による位置測定に比較星を五個使用して綿密に行つて居るので觀測位置の正確なる點には他の天文臺の精度を遙かに抜いて居り一秒以下の誤差で觀測されて居る。目的の小遊星を一つづゝ撮影して居るがそれでも今日までに狭い視野にまぎれ込んだ約20個近い新小遊星を発見して居る。近年佛ボルドー天文臺でも同種の望遠鏡を使つて同じ觀測を始めた。